

ナル n a r u

鳴門教育大学大学院生、教員からのメッセージ。

Vol.1

時^と
代^き
を
ひ
ら
く。
。

各種お問い合わせ先

- 入学試験・募集要項の請求について(入試課)
TEL.088-687-6131
- 大学院説明会等について(入試課)
TEL.088-687-6135
- 授業・カリキュラム等について(教務企画課)
TEL.088-687-6097
- 免許・資格・教育実習について(教務企画課)
TEL.088-687-6095
- 学生生活・課外活動について(学生課)
TEL.088-687-6117
- 奨学金・授業料免除について(学生課)
TEL.088-687-6119
- 学生宿舎について(学生課)
TEL.088-687-6120
- 教員採用・就職支援等について(学生課)
TEL.088-687-6112
- 授業料等の納付について(財務課)
TEL.088-687-6060
- 専門職学位課程【教職大学院】について
(教務企画課)
TEL.088-687-6598



教育の一番礼所



国立大学法人

鳴門教育大学

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地
TEL088-687-6131

URL <http://www.naruto-u.ac.jp/>

E-mail nyushidaigakuin@naruto-u.ac.jp

2018年4月発行 鳴門教育大学教務企画部入試課

ナル naru



現代社会は、
複雑化・多様化し続けています。

この小冊子は、こうした現代の学校を取り巻くさまざまな教育課題を解決・改善してゆくため、日々、専門家として活躍されている本学の先生方からの熱いメッセージや在籍する大学院生の日々の様子などを、収録いたしました。

誌面の都合上、すべての方々からのメッセージを掲載することはできませんでしたが、この小冊子が鳴門教育大学大学院の魅力発信の一助とナルことを願っています。

教員の所属コースについては、2019年(平成31年)4月からの名称を記載しています。

m o k u j i

院生の日々	
修士課程 1
専門職学位課程(教職大学院) 3
修士課程	
現役セラピストだからこそ出来ること 5
異文化を理解して互いに学ぶ 7
専門職学位課程(教職大学院)	
教科実践高度化系	
消費者教育をもっと子どもたちに 8
全国の教員養成系大学に先駆けて 9
英語を使って自己実現しよう 11
教職実践高度化系	
誰もが持っている心の闇の問題 12
子どもが好き、だけで教師にはなれない 13
人と関わる仕事だから、人間の幅を広げたい 15
特色あるプログラム	
遠隔教育プログラム(修士課程) 17
学校教員養成プログラム(専門職学位課程(教職大学院)) 18
ナルちゃん日記 19
2019年(平成31年)度からの教育組織 20

「ナル」について

「ナル」は、成せばなるのナル、何者にでもなるのナル、なるほどのナル等々…
鳴門教育大学のナルにかけて名付けました。
「ナル」はこの小冊子を読んでくださる皆様方の心の中にあります。入試課



BK

修士課程

素晴らしい キャンパスライフ

— 院生の日々 —

臨床心理士養成コース 岩門 沙知さん

修士論文とゼミ

2年間の集大成

入学してすぐ修士論文の構想を発表します。翌年の4月にも中間発表があり、2年間かけてひとつのテーマについて研究します。私は自己愛について研究しました。元々ある論文の中から、こういうことが言えるのではないかとという仮説を立て、実証していきます。学内の学部生・院生はもちろん、一般の方にもアンケートをとり統計処理を最後までしていきます。結果は、仮説通りに出ないときもあります。アンケートというものは、本人の意識していることしか答えに反映しないという点が欠点ではないかと思いましたが、修士論文は、空いた時間に院生室や自宅で取り組んでいます。ゼミの時間には、担当の先生にマンツーマンで指導していただいています。今は、実習と論文を中心に生活していますが、以前はよく同級の友人とショッピングやカフェめぐりをしました。時間がある時は、カフェで何時間も話し込んだり……。恋話ではなく心理学や講義の内容についてですが、それも楽しい



事例検討会

カウンセリングに学ぶ

大学内の地域連携センターにある心理・教育相談室を訪れる人へのカウンセリングをしています。どなたでも利用できます。精神的に問題があるという方だけでなく、カウンセリングを受けることで心の中の整理ができ、スッキリして帰っていただけるので、多くの人

からでも行きます。子どもの発達に不安をもつお母さんなども来られます。50分のカウンセリングで話したことは全て記録します。その事例を学内で行われるケースカンファレンスで発表します。もちろん事例は匿名で発表され、プライバシーは守られています。同コースの2学年全員が集まって行われる事例検討会では、同席してくださった先生方からもコメントがもらえます。時には討論になることもあります。先生方の生の意見をお聞きできる機会が、楽しみでもあります。

思い出になりました。



学外実習

自分がやりたかったこと

病院実習は短期間でしたが、合間で不登校のお子さんの家を訪問したり、週に一回、夕方から児童養護施設に行ったりもしています。子ども達の多くは、言葉で自分の心情を表現することが苦手なので、遊びの中で表現する『遊戯療法』を取り入れています。さまざま

な玩具のあるプレイルームで、一緒に遊んだりもします。子どもは遊びながら、心の中に溜まったものを表現してくれるので、それを感じ取り、考察していきます。それをレポートにまとめ、大学の先生の空いている時間に報告をしていきます。それに対して先生からのフィードバックがあり、いろいろな提案やアドバイスがいただけます。その時に自分が不安に思ったことも相談します。実習を通し、勉強を積み重ねることで、その子どもの生活環境を総合的に理解し、どういった支援ができるのかを考え、子ども一人ずつに寄り添い、支えていける臨床心理士になりたいと思います。



*臨床心理士養成コースは、2019年(平成31年)4月に心理臨床コースへ移行します。



専門職学位課程
(教職大学院)

素晴らしい キャンパスライフ

—院生の日々—

教員養成特別コース 大川 真弥さん

ゼミと実習

無駄なことにはなにもない

わたしは、別の大学で日本語教育を学び、その後、中国で日本語を教えました。でも他の教科はどんな授業なんだろうと興味がわき、全教科が教えられる小学校の先生になろうと、この大学に進学しました。なので、一年生の時は学部生や他のコースの人と一緒に勉強し、二年次生になってから、やっと院生らしいゼミが始まりました。講義だけ受けている時は、自分がどんな頭でかちになっていくようで不安だったのですが、9月に主免実習を経験し、さらに10月の後半から11月の後半まで、基礎インターンシップで毎日、附属小学校で実習を行いました。すると今まで授業で学んだことには、無駄なことはなかったと思うようになりました。どうやら授業がうまくいくかというところだけでなく、子どもの思考の流れがどうなっているのか、この活動の意味はなんなのか、といった新たな視点で考えていけるようになりました。



愛のある人間関係

コミュニケーション

社会人になって一人で頑張れるのかと考えた時、無理だと思いました。一緒に頑張る仲間がいるからこそ頑張れるのだと実感しています。この大学は先生方も仲が良く、先生と学生は師弟関係というより、親子関係にちかいかんを感じてアットホームな雰囲気です。はつきり叱っていただけの事が私に合うていたのか、私も先生に思ったことを話すことができます。また、以前は女子大に通っていたので、共学というだけでワクワクしました。一年次生の時、知り合った友人と今も、ドライブに行ったり、食事に行ったり、手作りお弁当を作ってきて一緒に食べたりしています。また、小学生時代からお世話になっているバレーボールのコーチとも親しくさせてもらっています。たまに母校に行つて小学生にバレーボールを教えています。そんなふうな愛情を持って接してくれる大勢の人に感謝しつつ、充実した日々を送っています。



思い出し、へへ

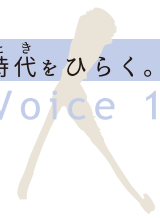
徳島の良さを体感

徳島で生まれ育った割に、自分はあまり徳島の事を知らないなと思いましたが、大学に来てから近場の海で釣りをしたり、ウチノ海公園でハーベキューをしたりと、鳴門の自然を満喫することができました。一度、阿波踊りを踊ってみたという思いがあり、一年次生の時に学部生だけでなく院生もたくさん参加している阿波踊り部に入部しま



した。ひと夏だけですが、鳴門のメイン通りや徳島の街を「鳴響連」として踊って行きました。また体育会系の友人に誘われて、三好市で行われているラフティングに初めて挑戦しました。世界レベルの激流といわれる吉野川は、ものすごく怖かったのですがめっちゃ楽しかったです。今まで、ほとんど徳島を意識してこなかったのですが、実家が香川に引っ越ししてしまい、ここにはずっと居られないかもしれないという思いが強くなり、新鮮な気持ちで徳島の良さを体感しています。





現役セラピストだからこそ

出来ること



教授 葛西 真記子

鳴門教育大学大学院 修士課程
心理臨床コース

を見せる。時には、一緒に相談しながら足場を作ることもあると言う。応援するが、無理強いはいしない。しかし、いくら相手の話を聞いても、なかなか理解できない時もある。暗闇からの脱出は、その人のことが理解できたところからはじまるのだ。親に連れられていやいや来た生徒がまた来たいと思ってくれた瞬間や、心を閉ざしていた子供が自分を信用して話し始めた瞬間が喜びに変わる。

「人の悩みばかり聴いて、しんどくないですか？よく聞かれるけど、しんどくなるのはプロじゃないのよ」と言う。クライエントと同じ悩みを経験したことがある者に多いのが、他人の悩みを自分と同じだと思ってしまうことらしい。育った環境も人間関係も違うのだから、究極のところ共感など、できるはずがないのだ。「日本人は察してあげることが、いいことのように思っているけど、カウンセラーになる人はちょっと鈍いくらいが丁度いいのよ。物分りの悪い人になりなさいって、学生たちに言っているの」

と目から鱗の見解だ。カウンセラーは、一歩後ろから、それはどういうこと？と尋ねながらいくくらいがいいらしい。大切なのは、その人の人生が、映画を見るようにリアルとわかるまで話が聞けているかどうかなのだ。

最新の引出しを増やしていく

カウンセリングには、いろいろな症状や悩みを持つ人がやってくる。その人達と信頼関係を結ぶには、多くの引出しが必要になってくる。「ぼんやり過ごしてたらダメよ。いろんなことを感じなきゃいつて院生たちには言っているの」と話す葛西教授の引出しは無数にありそうだ。幼少の頃から人を観察するのが好きだったと言う。フランスで幼少時代を過ごし、転校を頻繁に経験した。常に海外の人が家に来ていたという環境で育ったことも、人間観察に興味を抱く要因になっているのかもしれない。引出しは、勉強と人生経験から増えていく。

勉強はスバリ大学院にすればで

実践しているから教えられる

テーブルには、ぎゅしりと本が積み上げられている。「作業中だから移動させるなら、塊でしてね」と笑顔で指示する葛西真記子教授は、現役のセラピストでもある。授業やゼミの合間をぬって様々な場所に外向いてカウンセリングを行っている。最先端の情報を得るために海外で開催される学会にも、出席している。「現役でカウンセリングしていないと、学生たちに教えられないでしょ」と話す。ゼミでは先生と生徒というより、横並びで平等に意見を言い合っているそうだ。失敗談も含め、教授自身が経験した実践的な話をするらしい。まさに身をこめて、学生たちを育てている。

物分りの悪い人になりなさい

鳴門大の臨床心理士養成コースは、学生数が多く、学校・病院・施設など様々な場所での実習が経験できる。学生数が多いということは、たずさわる教授陣も多い。葛西教授は精神分析が専門だが、その他、来談者中心療法や認知知

動療法といった様々な学派の講義を受けることができる。複数の学派が学べるということは、セラピストになるにあたり自分にぴったりの理論を見つけていることができる。これは大きなメリットだ。

今、子どもの数が減少し、社会が激変する中、教員養成系大学の役割が問われている。しかし、鳴門大における修士課程の中の臨床心理士養成コースの実績は、たとえそれが非教員養成であっても揺らぐことはない。その理由が、葛西教授の話によっても裏付けされた気がした。

悩んでいる人は、真つ暗な洞窟や水底にいる感じだと分かりやすく説明してくれた。臨床心理士の仕事は、そこに降りて行き、どうしたらそこから出られるかを一緒に考えることなのだ。懐中電灯を照らし、洞窟の陰しさを足場の状況

*文中のコース名は平成30年4月現在のものとなっています。

准教授 坂本 有芳

鳴門教育大学大学院 専門職学位課程
教科実践高度化系
自然・生活系教科実践高度化コース



学部生のときは児童学を専攻していたと話す。卒業後、当時はほとんど男性しかいない職場で、システムエンジニアとして働いた。それがなぜ大学で教鞭をとるようになったのか。「それまでは丁寧な時間をかけて子育てしてしまっただけ、みたいなことを習ってただけ、実際、就職したら子育てと仕事の両立とか無理でしよってな。数少ない女性スタッフが、結婚や出産を機に会社を辞めて行く姿を目の当たりにして、「それは絶対おかしいよね」となった。お

かにも関連している。グローバル教育とは、世界にはいろんな人が存在し、異文化を理解するところからはじまるのだ。語学に堪能な人ばかりかと思いきや、そうではないらしい。センター所長を務める小澤教授も、元は理科の教員だった。鳴門大に勤めはじめたのが1993年というから長い。そこから家族と離れ、鳴門で単身赴任を続けている。転職は、最初のジャイカプロジェクトに参加したこと。その活動の重要性に気付いた小澤教授は、帰国後、教員教育国際協力センターに所属する。その後、国際教育コースができ、そちらに移り、理科教育の観点も含めて指導している。そんなに家族と離れていていいのかという質問をすると「良くはないんですけど」とはにかむ。年に5〜6回は海外に出向いて活動している。それだけ、やりがいのある仕事なのだ。

彼らは、その国ではそれなりに地位のある人で、普通に日本で居てもお目にかかれぬような教育の専門家もいる。そうだが、「一方的にこちらが教えるというのではなく、互いに学びあい、作り上げていく感じです。だから学生達も国際交流に参加したり、一緒に学校の視察に行ったりすることで、いろんな考え方を他国の教育を学ぶ機会があるんです」とお互いのメリットを話す。

教授 小澤 大成

鳴門教育大学大学院 修士課程
グローバル教育コース



きつかけは
ジャイカプロジェクト

小澤大成教授にお会いしたのは、静まり返った研究室ではなく、世界地図が壁一面に張られ、電話の対応に追われるスタッフの声が賑やかな教員教育国際協力センターの一角だった。もしかしたらハーフ？と疑ってしまいそうなダンディーな風貌は、まさにグローバルな匂いがする。

国際学カテストというのがあるそう。その成績、特に理科や数学の分野で日本はトップレベルをいくらしい。日本の理数教科教育だけではない。日本の

工業製品やエンジニアなども、世界では高く評価されている。鳴門大では、むしろ理数教科教育だけではないが、主としてそれらの指導方法やカリキュラムなどを学ぶために多くの留学生がやってくる。最近では、中国からの留学生も多い。

消費者教育を
もつと子どもたちに

子育てと仕事の両立は
無理なのか

ほんのりとアロマの香りが広がる研究室は、訪れる者の心を癒してくれる。その部屋の主、坂本有芳准教授は穏やかな口調と豊かな表情で、まるでこの時間を楽しんでいるようだ。

しいと思っても、ほとんどの人間は行動に移すことをまず、しない。だが、坂本准教授は違う。自分が感じた疑問を研究するためにエンジニアを辞め、大学院に入り直したと言うから驚きだ。そこでワークライフバランスなどの生活経営学を学んだ。大学院生時代に子育てをはじめ、現在は二人のお子さんとともに鳴門の地で暮らしている。仕事と家庭の両立はもちろん家族社会学や、現在取り組んでいる消費者教育など、ご自身の日常生活が研究対象になっている。

いかにして商品を買うか

消費者教育が、家庭科の一分野として独立したのは、今から十年ほど前である。一家庭科つてマイナーな教科でしょ。その中のさらにマイナーな分野だから気楽にやっていたんだけど」と坂本准教授。消費者教育推進法が施行され、学校で消費者教育にしっかり取り組むことが法律に明記された。さらに徳島県に消費者庁を誘致しようと、鳴門大でも消費者教育プロジェクトが立

ち上がった。多くの人に知ってもらうために学内での講義だけでなく、学外でも企業と共に関連するイベントなども積極的にやっている。

消費者教育とは、まず相手に騙されずに、いい商品が買える消費者を育てることだ。もう一つは、自分に良いだけでなく、社会や地球環境にとっても良いと思える消費をすること。エシカル消費やフェアトレードがそれにあたる。ファストファッションのように、安い商品を提供する陰で劣悪な条件で労働者を働かせている企業に対し、ノーと言えない消費者を育てる必要がある。そのためには知識や情報を手に入れた上で、一人ひとりが責任をもって判断をしなければならぬ。考えることが多ければ多いほど、判断するのは難しくなる。だから、子どものうちから消費者教育を学び、失敗も含めた経験をしながら、自分で判断する力を身に付けていくことが大切なのだ。

教授 梅津 正美

鳴門教育大学大学院 専門職学位課程
教科実践高度化系
言語・社会系教科実践高度化コース



全国の教員養成系大学に 先駆けて

修士課程から 専門職学位課程へ

同じ種類の本や資料がぎゅちり納まった本棚は、まるで舞台装置のよう。ボタンを押すと棚が開いて別の空間が現れるのではないかと、錯覚におちいる。そんな冗談を言うと、「超A型人間なので」とまじめに梅津正美教授はこたえる。

郷里の高校で社会科の教師を8年間つとめ、国立大学附属中・高等学校教諭を経て、鳴門教育大学で23年。副学長を6年間つとめ、今は、大学の改革改組の役職も与えられ、カリキュラム全体を統括している。「自分で言うのもなんだけど、バランス感覚はあるかな」と話す梅津教授は、学校現場や子どもたちの声にもアンテナを張り、社会のニーズをとらえ、国との折衝もこなしている。

改組では、修士課程に存在していた言語系や社会系、自然系、芸術系などの十の教科・領域コースが、専門職学位課程(教職大学院)に移行する。教職系の大学教員は、例えば社会系について言えば、歴史学や経済学などを専

ハイブリッド型カリキュラム

教職大学院に集まる学生は4つのタイプに分かれるそう。学部卒の学生と現職教員というキャリアの違う2タイプ。そして、教科を学びたい人と教職一般を学びたいという、学びの内容で分かれる2タイプ。この4タイプの学生が、交わり合いクロスしながら学んでいけるカリキュラムをそれぞれ用意している。

教授は謙虚に語る。

たとえば今までの修士課程では、社会科を専攻した学生は、主に社会系コースの人とだけしか学ぶことができなかった。「熱心に勉強し、採用試験も一発で合格した学生がいるんだけど、受け持ったクラスに特別な支援を必要とする子供がいたり、外国籍の子供がいたりする。言葉も十分じゃないのに、どうやって教えたらいいかわからないって悩むわけです」と梅津教授は言う。なるほど、今日の多様化する教育現場では直面しうる問題だ。そんな悩みも、現職教員で同じ院生でもある先輩が居てくれたら、アドバイスをしてもらえらるかもしれない。異なるキャリアや様々な人間関係の中で行う協働的な学びは教育を幅広くとらえ、俯瞰して考えていくために重要なことなのだ。だから、交わり学びあえるハイブリッド型カリキュラムが、教員養成という観点において意味を持つ。

実習はウィンウィンの関係で

鳴門教育大学の教職大学院では、とにかく実習が多い。当然、専門職学位

課程に移行した『教科実践高度化系』も実習科目に強みを持つている。「私たちのカリキュラムでは実習という言葉を使って、フィールドワークと呼んではいますが意味があるらしい。主に実習生を指導するのは10年以上のキャリアを積んだ中堅教員だが、今の学校現場を構成するのは、若い先生か、退職に近い先生かという二層になっている。多くの実習生を受け入れたらという思いはあっても、実際は忙しい過ぎて余裕がないのだ。そこで考えたのが、受け入れ先の学校と大学院側がウィンウィンになる関係。「大学院生なので、何かひとつは教員免許状を持つています。なので、うちの学生を仲間に入れていただいで使っていた、たくさんです」なるほど、だからフィールドワークなのだ。部活動や学習の遅れている子どもたちへの放課後指導や事務作業の手伝いまで、リアルな学校現場を肌で感じる事ができれば大きな意義がある。大学院側としては「学生一人一人が抱える課題について相談のつてもうえたり、教科指導の場を与えてもらえれば、彼らの学びの場になります」と梅津

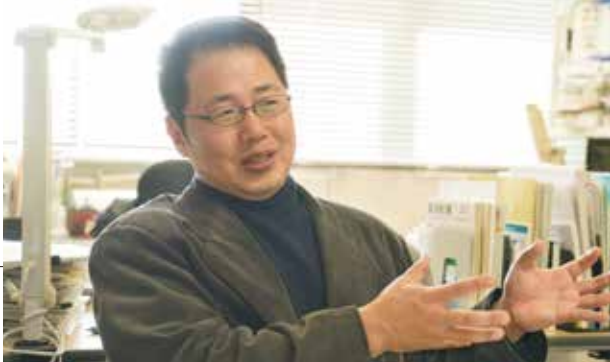
教授 阿形 恒秀

鳴門教育大学大学院 専門職学位課程
教職実践高度化系
生徒指導コース



教授 山森 直人

鳴門教育大学大学院 専門職学位課程
教科実践高度化系
言語・社会系教科実践高度化コース



英語を使つて 自己実現しよう

子どもの頃の体験が大事

故郷のアクセントが穏やかな人柄を優しく印象づける山森直人教授の研究室には、ゼミの学生から渡された色紙があちこちに飾られている。

英語の教員になる人は、何かしら子どもの頃に英語を使ったワクワクするような体験をしている人が多いと思う。教授自身も、子どもの頃、修学旅行にいったとき、片言の英語で外国人観光客と話した経験があるそうだ。そのとき、友達がたくさん集まってきて、みんなで記念写真を撮るほど盛り上がりがあったと思う。自分の中に楽しかった経験があるからって、子どもたちにもそんな経験をしてほしいと願うのだ。英語が話せることによって、開かれる世界や可能性があることを、子どもたちに伝えることができるのだ。

小学校で英語を教えること

英語コースは、修士課程から専門職学位課程へと移行し、より実践的なカリキュラムへと変わる。その背景には、小学校5・6年次に外国語科が教科として導入され、今まで楽しく体験的にやっていた外国語活動が3・4年次に早期化されることが挙げられる。小学校で、子どものことを一番理解している担任の先生が指導することが重

要と考えられるが、英語が得意ではない先生もいる。自分が話せないのに、児童に教えることが出来るのかという不安もある。そこで鳴門大に開設したのが、『小学校英語教育センター』だ。山森教授は、そのセンター所長も務めている。

誰もが持つている 心の闇の問題

いじめって何？

「いじめ防止対策推進法」が施行され、鳴門大にも「いじめ防止支援機構」が設立された。その機構長を務める阿形恒秀教授は、生粋の大阪弁で熱く語る。「いじめが、あつてはならないというところはわかっているんです。でも、その建前だけで終わってしまった瞬間、それはもう自分の問題ではなくなっているんですよ。そもそもいじめとは何なのか。法律に示された定義によると、学校などにおける人間関係で、本人が苦痛を感じた場合、それが『いじめ』になるという。国の願いは、出来るだけ広範囲に網をかけ、とにかく見逃さないで欲しいということだと阿形教授は解説する。「でも、いじめて太古の昔からある人の心の闇の問題でしょ」と阿形教授はいじめ問題の根深さを強調する。確か

に、命を絶つくらいなら、いじめられていることを周囲に話して欲しいと願う一方で、「思春期・青年期には、『同世代の仲間づくり』と『大人からの自立』という難しい連立方程式を解かなければいけないんです。だから、私たち大人もかつてそうであったように、子どもたちは親や先生に友達関係のことはなかなか話さなですよ」とも語る。物事はそんなに単純ではないらしい。いじめを認知することは、一筋縄ではいかないのだ。だから、阿形教授はいじめ認知の難しさを理解せずに学校や教師を責め立てる論調には組しないと語る。

ひとりでも頑張ると誰かと安心

二十数年前に現職院生として鳴門教育大学で生徒指導を研究した際に、阿形教授は現学長の山下一夫先生のゼミで学んだそうだ。そして、阿形研究室は、山下研究室を譲り受けたものだという。研究室の片隅には、同行二人とかかれた通路グッズが置かれている。それを指さし、「自分一人で巡礼しているお遍路さん、外から見るとひと

りでも頑張っている姿だけれども、内面に目を向けると、お大師様と一緒にいる意味でしょ」と阿形教授。人は依存できるからこそ自立できるらしい。その意味を、阿形教授は、学長の言葉を用いて話す。「依存と自立は、対立関係にあるように思うけど実はそうじゃないと言っている山下理論です。人はそんなに強くないから、安心基地でエネルギーを補給したり、ほっとする場面がある。幼い子どものときは、親、特に母親的な存在が安心基地として重要で、大人になり年を重ねると安心基地は思想・宗教・自然などに広がっていく。子どもと大人の中間の若い時は、同世代の仲間関係が安心基地としてとても重要な意味を持っています。だから、仲間から外されることは死ぬほど苦しいんです」。学校現場の子どもたち、思春期・青年期の子どもたちがリアルに感じている『生きづらさ』に寄り添い、心の闇から目をそらさずに関わり合っていくには、どうしたらいいか、阿形教授は真摯に向き合っている。



モチベーションはどうでもいい

一見、気のいい上司のようにも見え
るが、話の内容はストイックだ。「僕のモチ
ベーションとかどうでもいい。子どもに
とって大事なのは、教師として僕がスキ
ルを持っていて、子どもに不利益が生じ
ないこと。仕事なんだから」と職業論を
熱く語る。教員はなりたくない職業
だったと言うから驚きた。その割には、
中学校で理科の教員をしているとき文
部科学大臣表彰を受賞している。だが
賞をとった時、恥ずかしくて子どもに
話せなかったそうだ。「僕が賞をとって
子ども達には関係ないんだよね。僕の
真価を決めるのは彼らなんだから」と
言う。

その後、地元の教育委員会で人事担
当を経て、なぜ現在、大学教員をして
るのかという疑問が残る。その答えは前
田教授の「でも、やってみると楽しいよ、
教員って」と言う言葉にあるようだ。モ
チベーションなんかなくてもスキルを見
につけることで出来るが増え、仕事
が楽しくなる。つまり仕事は、やってみ
るうちに楽しくなるものなのだ。

資質と能力

「教師の資質と能力という言葉がある
んだけど、どちらが大事かって聞くと、みん
な資質って答えるんだよね」と前田教
授。資質というのは持って生まれたもの
だ。それで職業が決まるなら、こんな悲
しいことはないかと前田教授は言う。人に
優しいとか、真面目にするとか、そんな
ことはどの職業にも必要なことだ。医師
が医師となれるのは人に優しいからでは
なく、医師を身につけているからだ。大
事なのは能力だ。能力は誰でも伸ばす
ことができるし、それを伸ばしていくと、
だんだんそういう物の考え方ができる
ようになってくる。能力で資質を超える
ことができる」と言う。

困るのは、子どもが好きだから教員に
なると言う人らしい。野球が好きだけで
イチローになれるのと同じで、子ど
もが好きだけで、教師にはなれない。
一般の仕事の場合、能力がなければ自
分の収入が減るだけだ。だが教員は、何
百人、何千人という子どもに影響を及
ぼしかねない。プロフェッショナルとい
うのは、「あなたを嫌いな子どもでも、あな
たを好きにできるか」ということらしい。

教師として生きる道

職業は、自分のなりたいものに就くの
が一番いい。能力さえ身につければ、そ
の仕事でやっていける。教師の場合、そ
れは教職大学院にすれば、身につける
ことができる。人はその環境に身を明け
ば、学んでいけるものだ。10年かかるよ
うなことでも、ここでは2年あるいは3
年で学ぶことができると言う。「これは
すごい価値があること」と前田教授は



教授 前田 洋一

鳴門教育大学大学院 専門職学位課程
教職実践高度化系
学校づくりマネジメントコース



子どもが好き、
だけで教師にはなれない

力説する。
教職大学院は、学問を究めるだけで
はなく、職業人教育を受けるところで
ある。教師という職に対して学位を出
している。ここには、学部卒のストレート
マスターや、違う経験をしてきた学生
や現職の教員など様々なキャリアの人
が集まっている。「資質とか能力とか簡
単に言うけど本当は何なんだろうっ
て、それぞれのキャリアの人に考えて欲
しい」。学校とは何か。教育とは何か。こ
こに来て自分なりの答えを見つけて欲
しいと言う。突き詰めれば生き方の問
題なのだ。

変わる人が変えられる

教員というのは人を変える職業だ。跳
び箱が飛べなかった子どもが、飛べるよ
うになるとか、難しい問題が解けるよ
うになるとか。

自分を変えることができないと、人を
変えることはできないと言う。「今の僕
のキャラは、家に帰った時のキャラとは
違うよ、わかる？」と聞かれて、よくわ
からない。わざと厳しくしているそう

だ。それがスキルだと前田教授は話
す。
だから、自分を変えることに躊躇して
はいけない。常に教師はどんどん学ん
で、スキルを身につけていかなければな
らないのだ。「学ぶことをやめたら、人は
変われなくなるよ」と前田教授。それは
全ての職業に対しても言えることかも
しれない。



荒れた子どもたちに接して

すり鉢状の教室には大勢の学生が集まっていた。正面で話す阪根健二教授は、さながらテレビの名物司会者のようだ。県南で行われた防災実習について、班ごとに分かれて発表していく授業だった。阪根教授は、言葉に「まる学生」の緊張をほぐし、興味深く質問し、話題を引き出す。どんな答えも受け入れ、最後には必ず「はい、ありがとうございます」と拍手する。

専門は学校教育学。徳島では防災教育で有名だが、他にも危機管理や生徒指導、いじめや性に関するIGBTなどを幅広く研究。新聞教育を推進する日本NIE学会の会長でもある。よくよく聞くと、本当の専門は電子工学だった。尊敬する師が、たまたま教員養成系の大学に居た。追いかけて行ったところ自らも教員免許を取得することになったという。

電子工学を研究しながら、東京の荒れた学校でアルバイトしたことが運命を変える。「普通は嫌になるんだけど、人間って不思議なもので、荒れた子どもたちに興味を持ってしまっただけ」

育者の道に進むきっかけとなるエピソードを気さくに話してくれた。「半導体」というのは、物質の中に不純物を入れることで、上手く動くんですよ。彼らもいい意味での不純物ではないかと考え対応したところ、大変上手くいき出したのだと言った。「もしかして、これが僕の居場所かな」と思い、電子工学の道を選んだ。教師になった。その後、荒れた中学校へ赴任。その学校が落ち着くと、また別の荒れた学校へ移った。荒れた生徒に対する接し方のヒントを聞くと、とにかく先入観を持たないことだった。彼らの多様性を認めることにつきると言う。そんな阪根教授自身が、大きな多様性を秘めていた。

「うちの大学の先生方は、まさにさまざまな多様性を持っていて面白い。だから、その多様性を学んでほしい」と阪根教授はアピルする。どうやら鳴教大は個性的な先生方が大勢いるらしい。将来、教師になろうと思っている人は、学校の中のことだけ知っていたらいいわ

教師ほど素敵な仕事はない

「うちの大学の先生方は、まさにさまざまな多様性を持っていて面白い。だから、その多様性を学んでほしい」と阪根教授はアピルする。どうやら鳴教大は個性的な先生方が大勢いるらしい。将来、教師になろうと思っている人は、学校の中のことだけ知っていたらいいわ

けではない。様々なことを見つめていく必要があると力説する。

新入生は、大学に入ってすぐ合宿を経験する。阪根教授は、毎年、そこで講話を行っている。必ず話すのが「子どもが好きだから教員になる」という発想はやめて欲しい。好きという理由では、嫌いなならなら終わりです。覚悟をもって「！」と。そう言えば言うほど、学生は教師という仕事にしがみつく。

「僕のコラムをまとめたものです」と手渡された本のタイトルは、まさに『教師ほど素敵な仕事はない』。『教師は素敵！ 教師は楽しい！ 過酷な現実に押しつぶされそうになってもやっぱりこーう言いたい』というサブコピーが付いている。鳴教大に来る前から、毎日新聞に書いていたコラムを集めたものらしいが、企画や発想は今も変わらない。小豆島の岬の分教場を借りきって、12人の学生（二十四の瞳）を集め、実際に教壇に立たれていた先生に授業を再現してもらったことや、大学周辺の清掃を学生たちと知事公署まで足を延ばして続けたところ、知事本人や学長までもが顔を出すようになり、その副産物として清掃用具や揃いのジャンパーまで

用意してもらったといった面白いエピソードなどが載っている。悩める教師に、エールを贈る阪根教授の情熱がまつまっている。

つきあい難い人と付きあう

「うちは今、おもちゃ王国と共同開発しています」と見せてくれたのは子ども用のブロック。今度、学生たちと乗り込んで行き、鳴門教育大学のパビリオンを運営すると言った。以前は、香川の遊園地でブースを貸り、キャンドルナイトという企画をした。チラシを学生がデザインし、企業に稟議をあげ、印刷費用を捻出。完成したチラシを駅前や商店街で配布。チラシにはナンバリングした割引券がついていて、どの班がどれくらい商圏を広げたかを比べた。そのままやるから楽しいのだと阪根教授は目を輝かせる。

だが、企業とコラボレーションした企画は、将来、教員となる学生にどんなメリットがあるのだろうか。「様々なワークショップやボランティアに参加する学生は、教員採用試験に」とことごとく

合格するんです」と阪根教授は自負する。様々な経験をすることが、人間の幅を広げると言う。今、問題になっているのは、教員自身の常識や社会性。有料で来てくれるお客さんを遊園地の中で受け入れるには、どうしたらいいか。安全対策やクレーム対応もしなければならぬ。手を前に出し、子どもたちを迎える。頭を下げて挨拶をするなど、人として学ぶことは多いという。

荒れた生徒たちと向き合うことは、色々な人と付きあい、社会と深く結びついていくことだった。人と関わる仕事だからこそ、大切にしなければならぬことがある。「付き合いやすい人とだけ付きあうのは大間違い。むしろ自分に都合の悪い人と付き合うのがいいんです」。付き合い難い人ほど、いい人脈につながっているらしい。企業にも学生にもプラスになる多くの企画を成功させてきたノウハウがそこにあった。

最後に、「明日を見つめる教員になる」。それが、コンセプトだと強調した。



人と関わる仕事だから、人間の幅を広げたい

学校教員養成プログラム

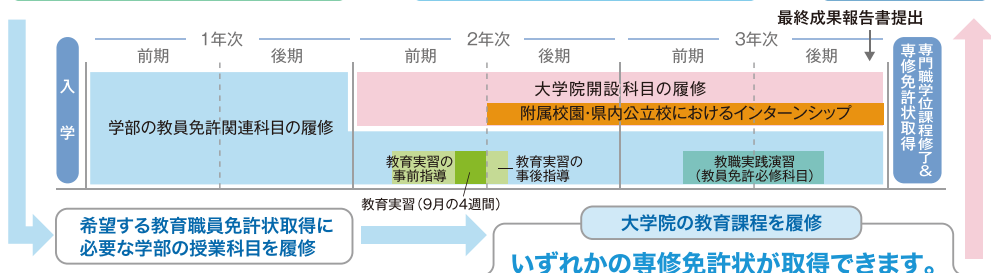
★このプログラムは出願時に申請が必要です。

- 1) 幼稚園教員養成プログラム
- 2) 小学校教員養成プログラム
- 3) 中学校教員養成プログラム
- 4) 特別支援学校教員養成プログラム

長期履修学生制度を活用した本プログラムは、大学院(教職大学院)に3年間で在学し、大学院の教育課程に加えて学部の教育課程を履修することで、教育職員免許状と学位を取得できるものです。

標準修業年限(2年)+1年
大学院に3年間で在学

学位:教職修士(専門職) + 専修免許状



希望する教育職員免許状取得に必要な学部の授業科目を履修

いずれかの専修免許状が取得できます。

※専修免許状の取得には当該種別(教科)の一種免許状を取得していることが必要です。

1) 幼稚園教諭
一種免許状

2) 小学校教諭
一種免許状

3) 中学校教諭
(高等学校教諭)
一種免許状*

4) 特別支援
学校教諭
一種免許状**

*中学校教員養成プログラムを申請された方で、高等学校教諭免許状の取得を希望する場合は、入学後に教務企画課へ相談してください。

**特別支援学校教諭免許状を取得するプログラムは、子ども発達支援コースを志願した者で、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のいずれかの教育職員免許状の授与資格を取得または取得見込みの者が対象となります。

学校教員養成プログラムとは?

学校教員養成プログラム(以下「プログラム」という。)とは、長期履修学生制度を活用し、大学院に3年間で在学し、教育職員免許状と教職修士の学位を取得できるプログラムです。

つまり、本学大学院学校教育研究科(専門職学位課程)の入学志願者の中で、新たに教育職員免許状を取得し、学校教員(幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、特別支援学校教諭)の職に就きたいという熱く強い志をもつ人たちへ、その道を開くプログラムです。

3年間大学院に在学し、学部及び大学院(専門職学位課程)の授業科目を履修することにより、教育実践力のある学校教員としての資質を磨き、かつ、教職に関する高度で専門的な知識を習得することを目指します。

プログラムの特徴は?

①3年間で学部及び大学院(専門職学位課程)の授業科目を履修して教員免許状を取得

1年次で学部の教員免許関連科目を履修し、2年次からは主に大学院(専門職学位課程)の科目を履修します。出身大学で教職科目を取得していない学生でも3年間の在学中で教職修士の学位と「専修免許状」を得られる、欲張った履修を可能にしています。

②教育実践力の向上をねらいとした体系的な実習科目

教員免許取得に必要な学部授業の教育実習を1年次、2年次に実施し、学校教員として最低限必要な実践力を身につけるとともに、2年次からは教職大学院における長期インターンシップとそれを省察する授業を時系列的に実施することにより、実践力の向上を目指す体系的な実習となっています。

③経済的な授業料

授業料は、学費2年分を3年間で分割納入していただくこととなります。

教員免許取得の詳細については、教務企画課にお問い合わせください。TEL.088-687-6095

とき時代をひらく。

Voice 9

准教授 藤村裕一

鳴門教育大学大学院 修士課程
現代教育課題総合コース

遠隔教育プログラムの必要性



インターネットを活用して働きながら学ぶ

藤村裕一准教授は、鳴門大で遠隔教育プログラム推進室長をされている。専門は教育工学。小学校教員、指導主事を経て、現職。文部科学省・総務省・NKK関連の委員会、委員長・主査・委員を務める。

遠隔教育プログラムの正式名称は、インターネットを用いた遠隔教育による大学院プログラムで、人間教育専攻の現代教育課題総合コースで開設されている。

現職教員、教育関係者の方が、所属

長の同意を得て入学することで、勤務地を離れることなく、インターネットを活用した遠隔教育システムとスクーリング(学校の長期休業中等に行う対面の集中講義)を利用して大学院で学ぶことができるプログラムだ。

働きながら学ぶ現職教員、教育関係者を対象としているため、教職上の繁忙期に配慮した学年暦、2年分の学費で3年間学べる長期履修学生制度などさまざまな支援策を設けているそうだ。

また、インターネットを通じて、共通の課題について話し合ったり、情報交換ができるそうだ。

「どうが遠隔教育プログラムで、あきらめかけていた大学院進学という夢を実現させてください。全国各地の幼小中高の現職教員をはじめとする多様な教育関係者と共に学び合おうことができます」という言葉で、ガイドブックの紹介文は締めくくられている。

大学院進学をあきらめないで欲しい

遠隔教育プログラムができたひとつの背景に、現在の学校教員の構成と子どもたちの多様性があると考えられる。現在、学校教員は20代の若手と50代以上のベテラン教員の構成が主で、30代〜40代の中堅教員がほとんどいない状況なのだ。その上、外国籍の子ども

鳴門教育大学大学院の教育組織

2019年(平成31年)3月31日まで

●修士課程

専攻	コース
人間教育専攻	人間形成コース
	幼年発達支援コース
	現代教育課題総合コース
	臨床心理士養成コース

特別支援教育専攻

言語系コース(国語)
言語系コース(英語)
社会系コース
自然系コース(数学)
自然系コース(理科)
芸術系コース(音楽)
芸術系コース(美術)
生活・健康系コース(保健体育)
生活・健康系コース(技術・工業・情報)
生活・健康系コース(家庭)
国際教育コース

●専門職学位課程(教職大学院)

専攻	コース
高度実践専攻	教職実践力高度化コース
	教員養成特別コース

2019年(平成31年)4月1日から

●修士課程

専攻	コース	分野等
人間教育専攻	心理臨床コース	臨床心理学領域 心理・教育科学領域 障害科学領域
	現代教育課題総合コース	
	グローバル教育コース	国際教育協力分野 日本語教育・日本文化分野 英語コミュニケーション・異文化理解分野 国際理科教育分野

●専門職学位課程(教職大学院)

専攻/系	コース	分野等
教科実践高度化系	言語・社会系教科実践高度化コース	国語科教育実践分野 英語科教育実践分野 社会科教育実践分野
	自然・生活系教科実践高度化コース	数学科教育実践分野 理科教育実践分野 技術・工業・情報科教育実践分野 家庭科教育実践分野
	芸術・体育系教科実践高度化コース	音楽科教育実践分野 美術科教育実践分野 保健体育科教育実践分野
高度学校教育実践専攻	子ども発達支援コース	特別支援教育分野 幼児教育分野 家庭教育支援分野 幼小連携教育分野
	学校づくりマネジメントコース	学校リーダー養成分野 ミドルリーダー養成分野 カリキュラム・マネジメント分野 地域学校協働分野
	生徒指導コース	生徒指導・学級経営分野 道徳教育分野
	学習指導力開発コース	カリキュラム開発分野 教育評価開発分野 アクティブラーニング開発分野
教員養成特別コース		

ナルちゃん日記

ナルちゃん 教職大学院に合格の巻

教職大学院に合格したよー!

おめでとう お祝いしなきゃね!

ルン♥

教員免許 持ってるの?

二種免許状って やつんだけどさー 持ってるヨ。

それを専修免許状にするんだったら 在学中に一種免許状にしておく必要があるんだヨ。

あっ、そうなんだ じゃあがんばって 在学中に 単位とらなきゃネ!

単位とかの詳しいことは 大学の免許担当の人に 問い合わせるといいヨ。

で、お祝い決まった?

ありがとう いいこと聞いたヨ。

ナルちゃん 教員採用試験に合格の巻

教員採用試験に合格したよー!

え〜 一発で受かったんだ。

エヘン!

秘訣があるなら 教えてヨ。

就職支援室って知ってる? あそこ、いいヨ 元校長先生だった先生とかが アドバイザーしてさー いろいろ相談に乗ってもらったんだ。

いつでも相談に行ってもいいの?

うん! 就職支援プログラムってのがあって その中の教採対策ガイダンスってのに 参加したんだ。 模擬テスト以外は無料なんだヨ。

まずは、就職支援室を訪ねてみることだよ。 参考書や問題集も 貸してもらえるんだヨ。

なんだかお徳感があるネ。 楽しみになってきた♪